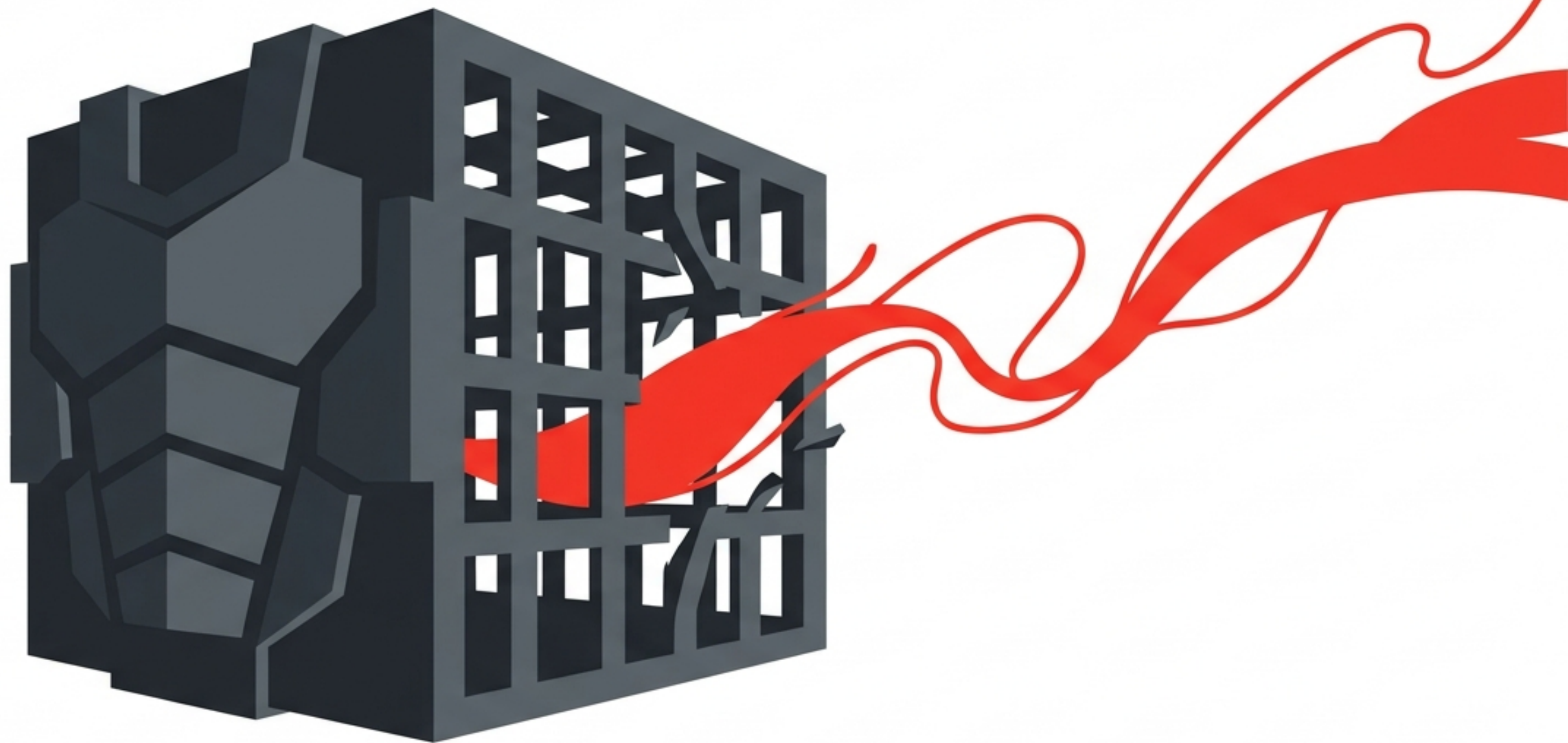


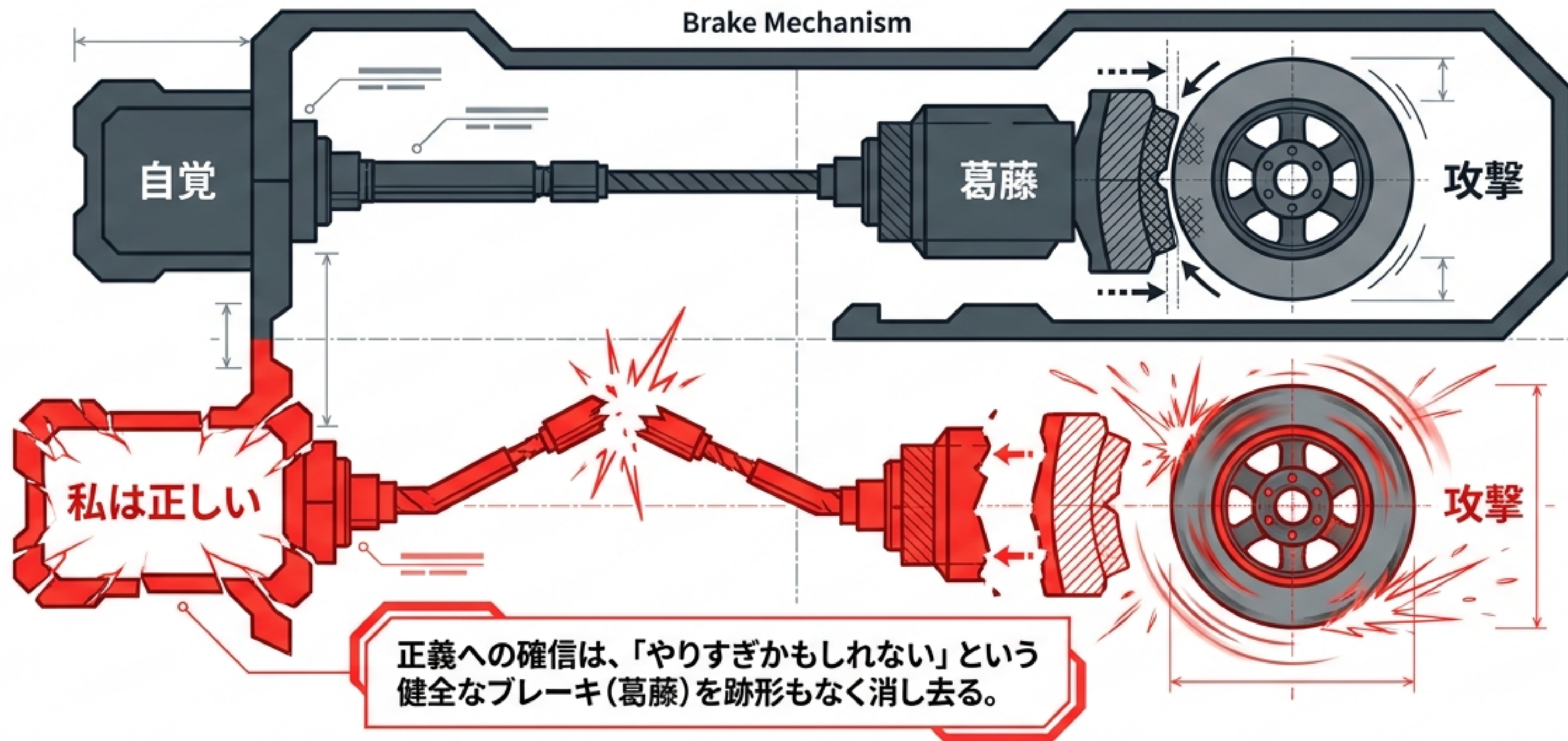
格言：正義に従って生きる人は、危険。

正しさの鎧を脱ぎ捨て、変わり続ける自由を選べ



最も危険な「ブレーキの喪失」

人間が最も無慈悲になれるのは、悪事に手を染めている時ではない。
「自分は正義の側にいる」と確信した瞬間である。



正義の罠：美しい価値観が武器に変貌する時

「シャトルを大切に扱う」

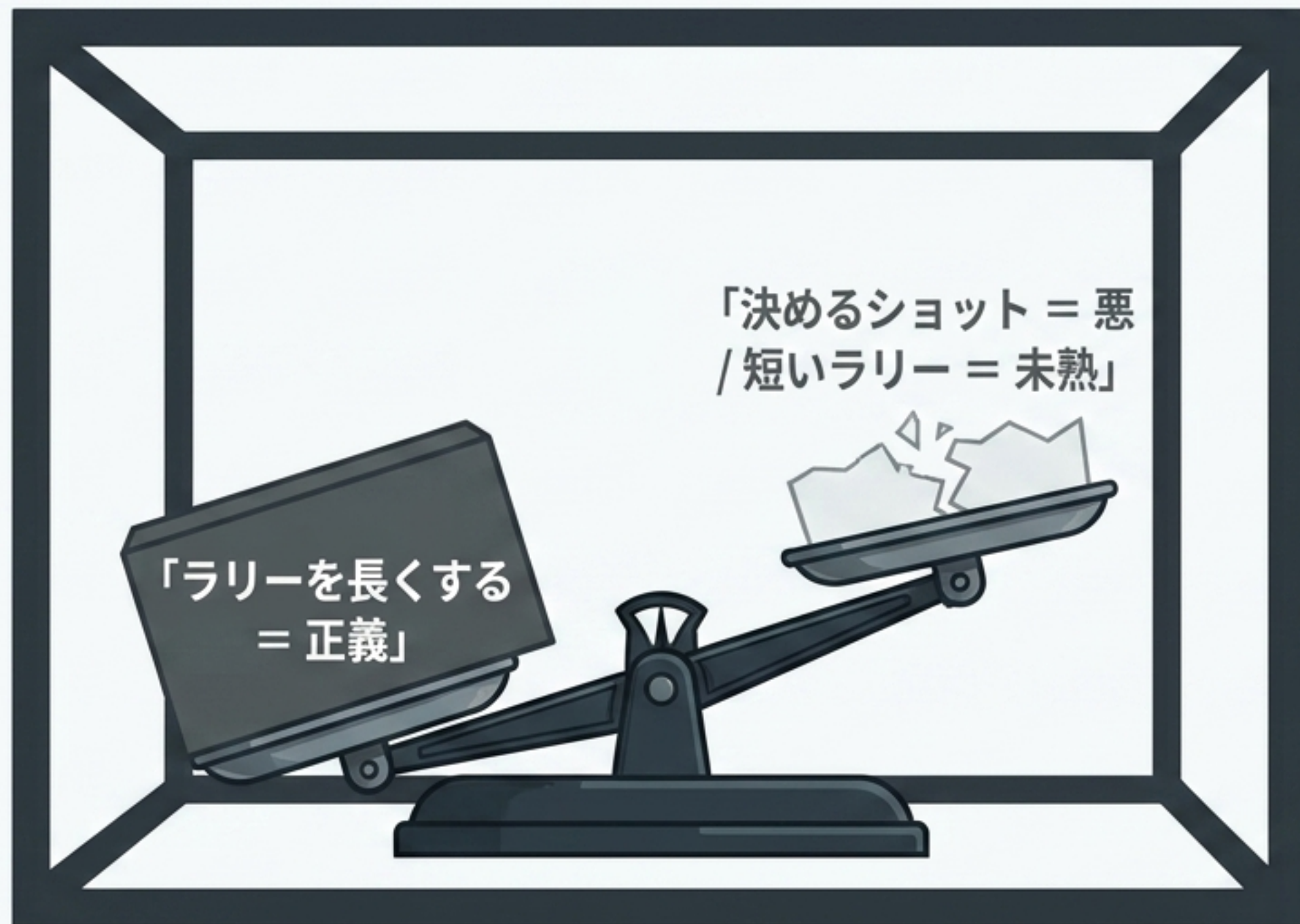
「強く叩く人は間違っている」

「その打ち方をする人を正したい」

目的が「技術の追求」から「他者への裁き」へとすり替わった瞬間、人は成長をやめ、自らを正義の審判者へと仕立て上げる。

二元論に囚われた思考の停止

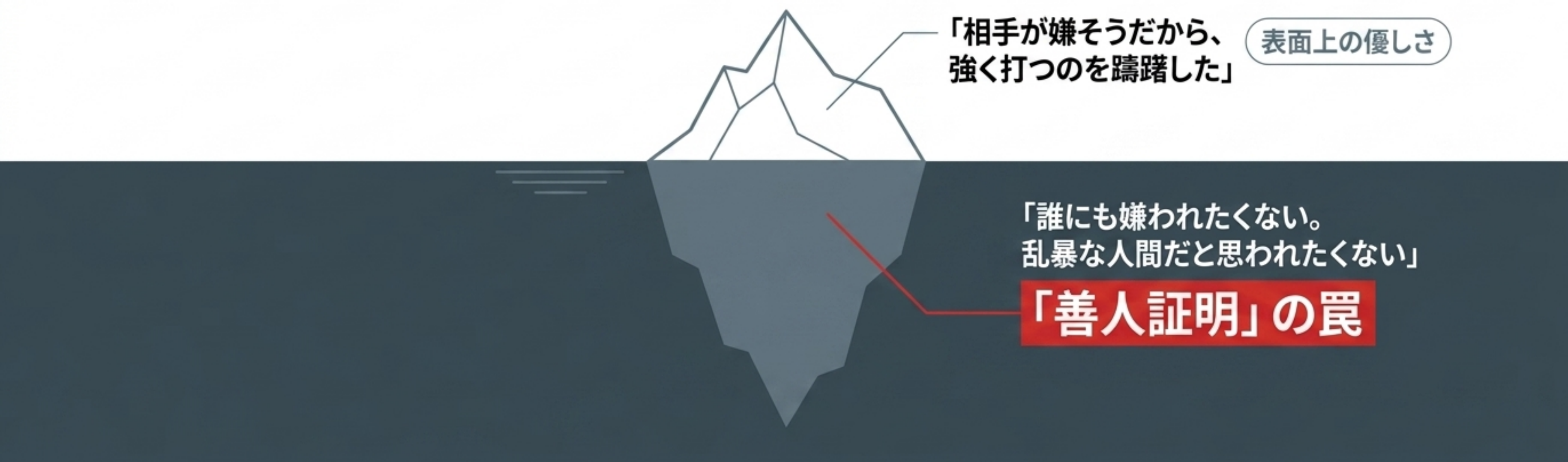
極端な二元論に支配されると、目の前の相手の動きも、コートの実態も見えなくなる。



危険なパラドックス：「多様性を認めるべきだ」という正論すら、一歩間違えれば「裁く人を排除する」という新たな正義に成り下がる。無限に正義を生成できるからこそ、自らの思考を疑え。

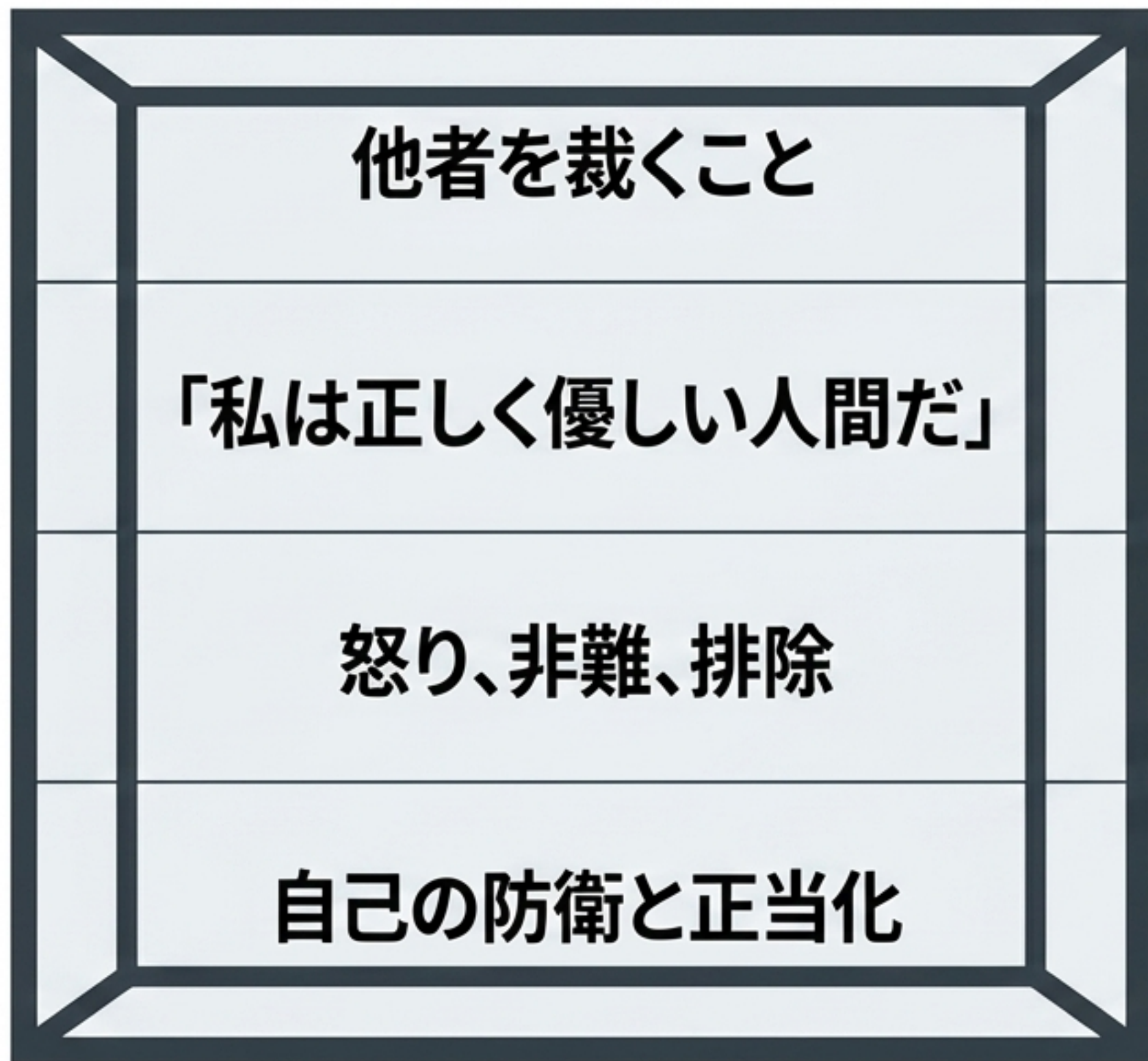
「善人証明」という名の自己防衛

勝負の場でパートナーとの勝利よりも「自分が誰にも嫌われないこと」を優先していないか？



ショットに善悪はない。自分がどんな人間であるか（自己像）を証明するためにプレイするのを、今すぐやめろ。

正義に縛られたプレイヤー



役割を引き受けるプレイヤー

任務を遂行すること

状況が求める姿へ流動的に変化

調整、戦略の変更

成長と勝利

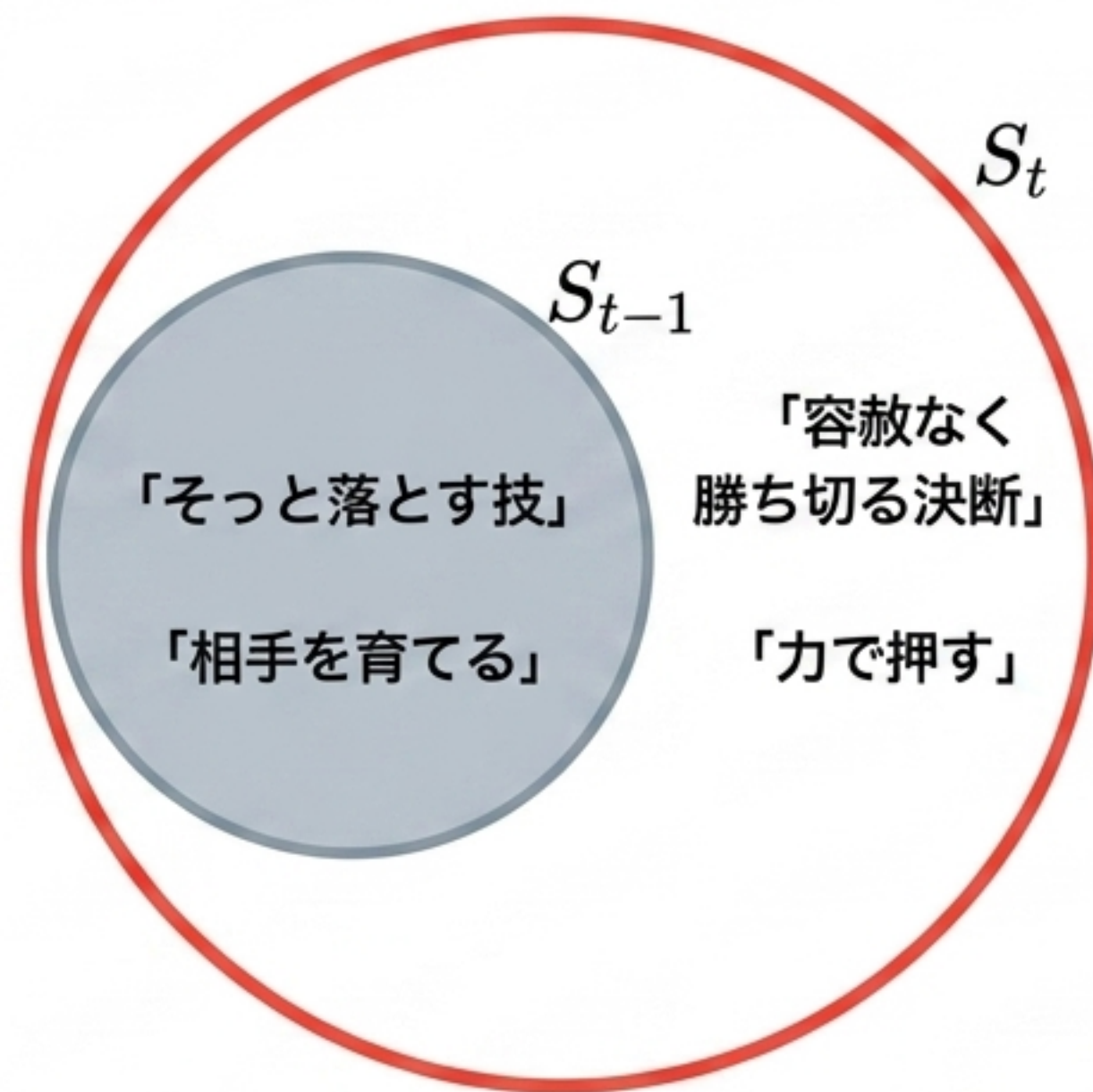
~~成長 = より正しい人間になること~~

**成長 = 選択肢の集合を
拡張すること**

できなかったことができるようになり、持っていなかった選択肢を手に入れること。これが真の進化である

成長の数式： ΔS （選択肢の拡大）

$S_{t-1} \subset S_t$ （ただし $|S_t| > |S_{t-1}|$ ）



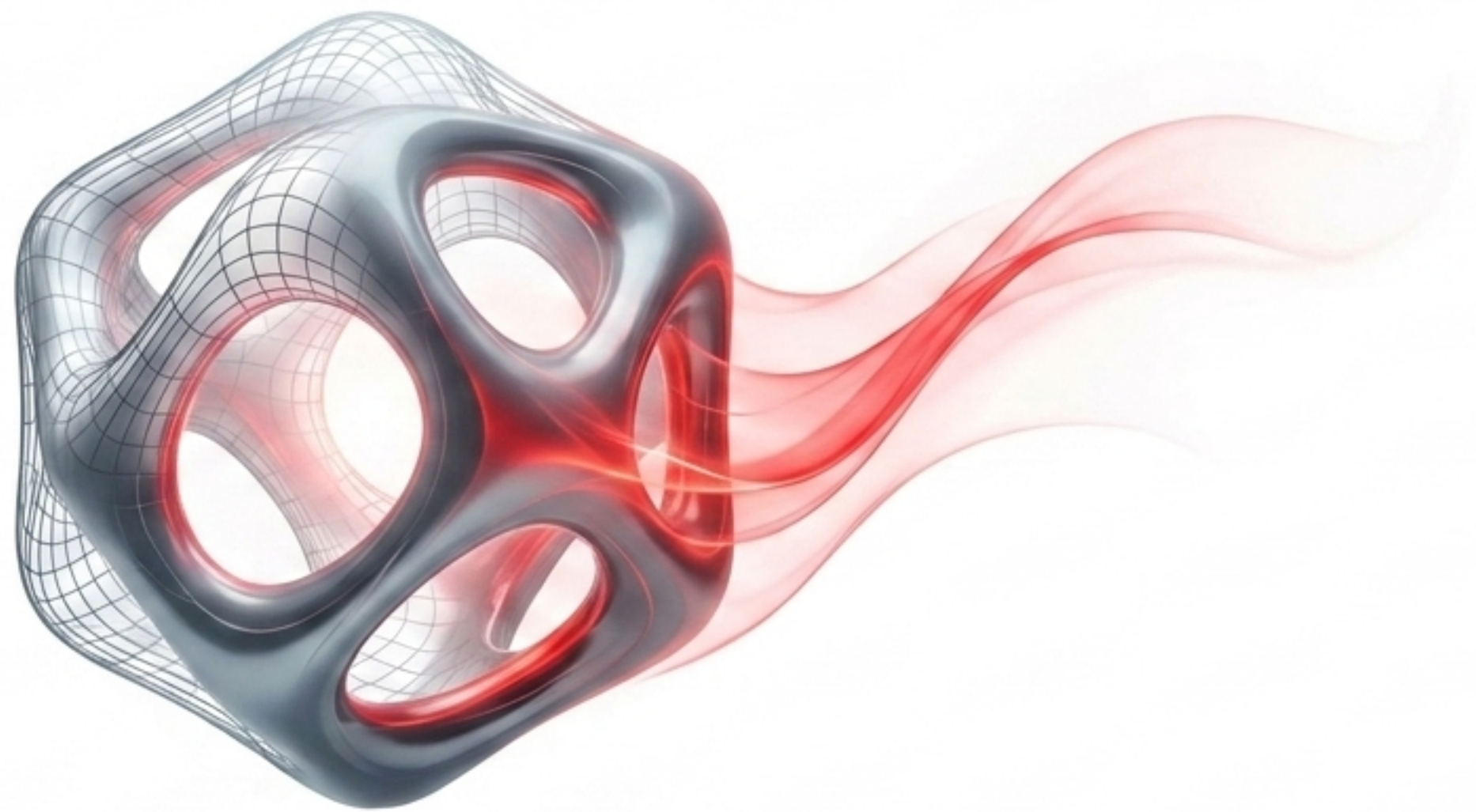
優しい人が、決めるべき時に容赦なく決断する。古い選択肢を捨てるのではなく、相反するカードを両方持ち、自由に選べる状態こそが本質的な成長である。

「自分らしさ」という自作の檻を破壊せよ



美しく聞こえる「自分らしさ」は、新しい選択肢や変化のプレッシャーから逃避するための、最も頑丈な言い訳（檻）になる。固定化した正しさを握りしめるな。

究極の自由：その瞬間の「役割」を生きる



優しい人が必要な時には容赦なく決め、激しい人が静かに引き、守る人が手放す。

本当の強さとは、善悪の法廷を降り、その瞬間のコートの状況に最も必要な振る舞いを柔軟に選択できる「流動性」にある。

【思考変革】コート上で己を問う3つのセルフチェック

【 】 他人に憤りを感じた時、「自分は正しい側にいる」という免罪符に酔っていないか？

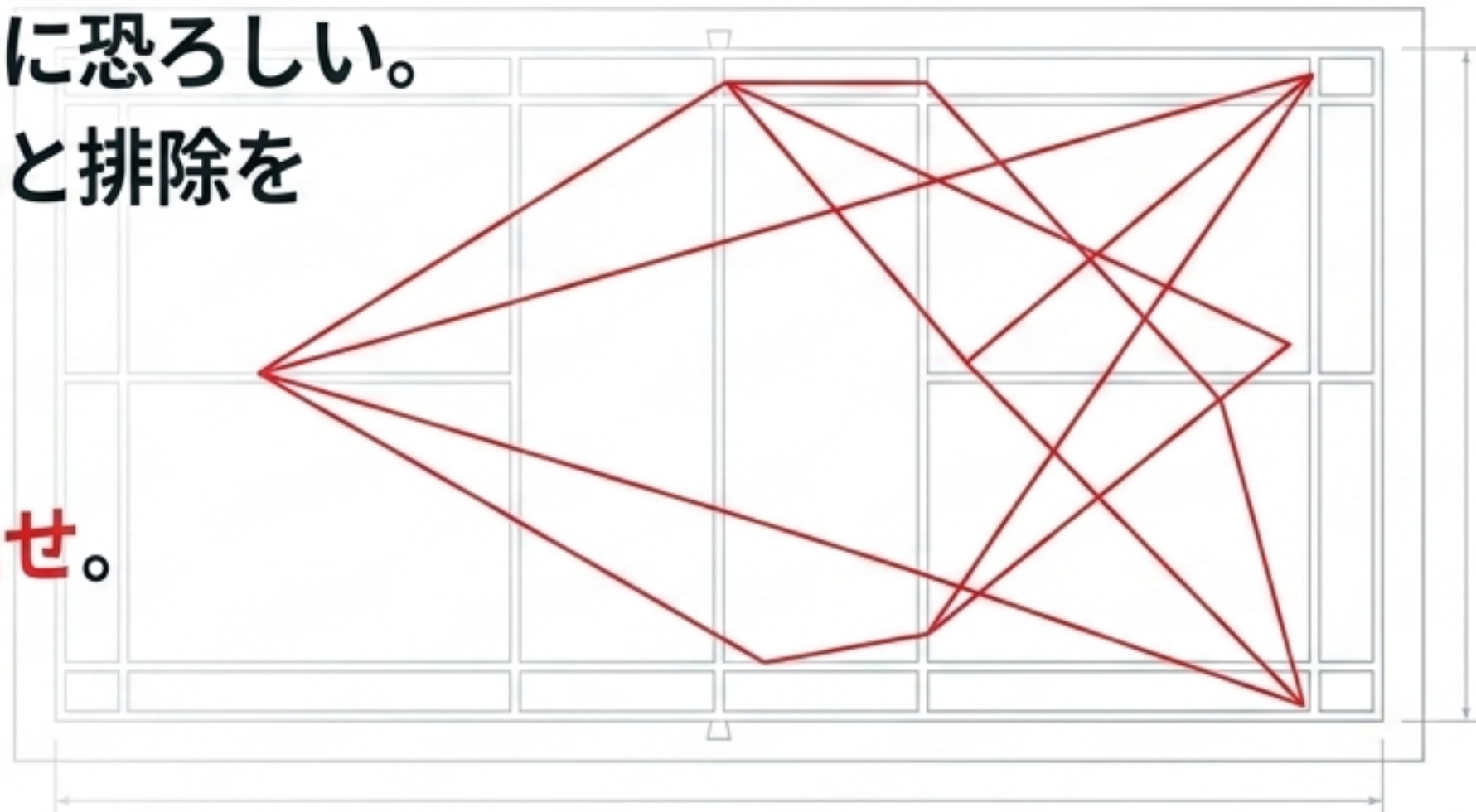
【 】 「私はこういう人間だから」という主張は、変化から逃げる言い訳になっていないか？

【 】 今選択しようとしているその一打は、「役割の完遂」か？
それとも「善人である自分の証明」か？

Synthesis: 善悪の法廷から、実際のコートへ

人間は「間違っているかも」と悩む時より、
「正しい」と確信した時の方がはるかに恐ろしい。
なぜなら「正しさ」は、他者への攻撃と排除を
自分に許可してしまうからだ。

自分を守るための**正義の檻**から**抜け出せ**。
正しい人になろうとするな。
昨日までできなかった**選択枝**を、
今日選んでみる**自由な人間**であれ。



**『正義』を抱く者は自らを縛り、
『役割』を引き受ける者が未来を
拓く。正しさの鎧を脱ぎ捨て、
変わり続ける自由を選べ。**



昨日の自分には選べなかった一打を、今日静かに打てる人間になれ。